第25章 地域編①：華北地区（北京市、天津市、河北省、山西省、内モンゴル自治区）

1. 華北地区の地域概要

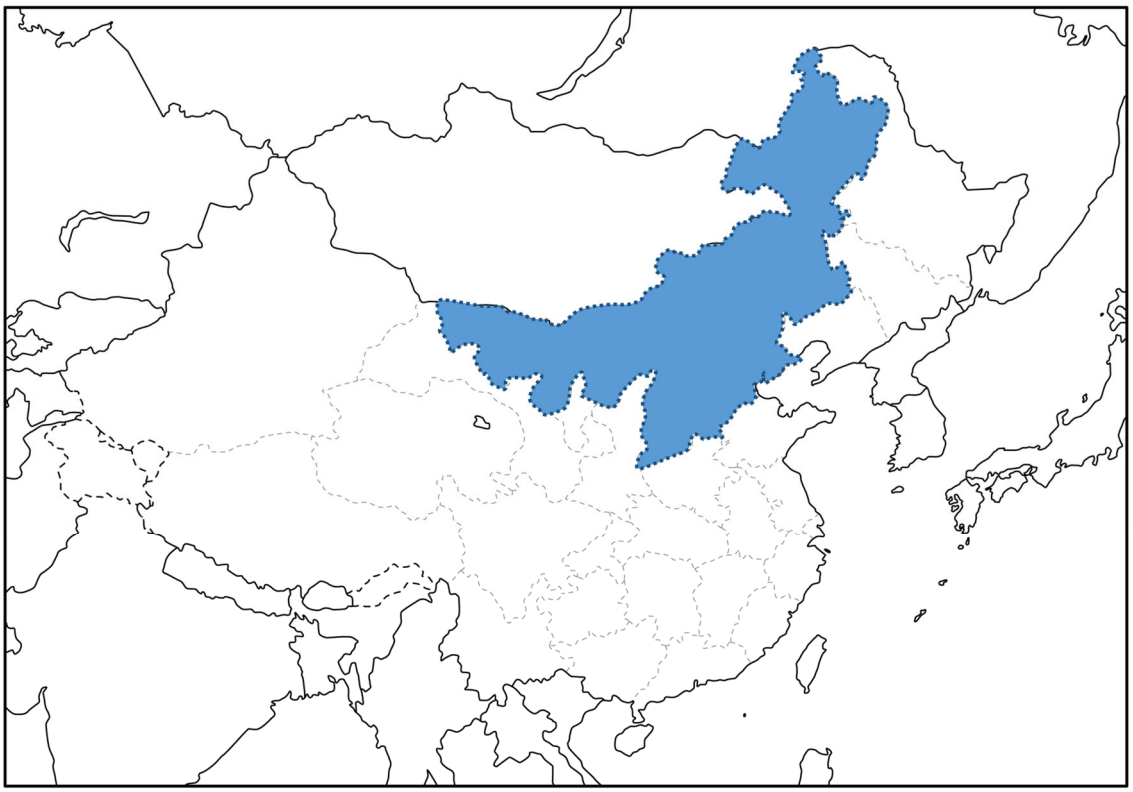
(1) 華北地区の経済的地位

北京市は中国の首都であり、中国における政治・経済・文化の中心として発展を遂げてきた。天津市は中国四大直轄市の一つである。

北京市、天津市、河北省（略称は「冀」）は「京津冀地区」と総称されることが多く、環渤海経済圏（中華人民共和国の渤海周辺に形成される経済圏）の主要都市である。中でも、北京・天津地域は華北地域の一大工業地帯であり、石油化学、冶金、機械、電子、紡織、自動車、時計、製紙、食品等、幅広い業種が存在する。近年は「京津冀地区協同発展」が提唱され、北京・天津の産業基礎を利用し、更なる交通インフラの建設に基づき、一般製造業の周辺地域への移転と先端製造業の誘致施策を合わせて、周辺地域の人材流動や産業リソースの有効活用を向上させる。また、雄安新区等の新規建設エリアでは、再生エネルギーや IoT 等の新技術を活用し、次世代のスマートシティを目指している。集積回路等の半導体産業、先端医薬産業、EV 等の再生エネルギー関連産業が主な発展ポイントになり、企業誘致に力を入れている一方、天津をはじめとした物流インフラも有効活用できる。

山西省・内モンゴル自治区には豊富な石炭が埋蔵されており、華北地区の電力網の中でも重要な役割を果たしている。内モンゴル自治区は中国の北部に位置し、モンゴル、ロシアと国境を接する。石炭以外では天然ガス、クロム等を有している。電力は豊富で、内モンゴルから東北地区に送電している。

図表 25-1 華北地区



(2) 華北地区の特色

図表 25-2 華北地区に進出した場合のメリットと留意点

メリット	留意点
【環渤海経済圏】 環渤海経済圏（天津・北京他）は、珠江デルタ経済圏（深圳・広州）、長江デルタ経済圏（上海・蘇州）に次ぐ第 3 の国家プロジェクトとして開発が進められている。 「京津城際鉄路」は北京と天津をつなぐ最高時速 350km/h の新幹線で約 30 分到着でき、地下鉄乗換で便利に都市間の移動ができる。「天津新港」（中国で 5 番目大きいコンテナ埠頭）に隣接している。また、「天津濱海国際空港」から 38km と近く、同空港には中国の最大の航空貨物運送センターがあるため、物流面でメリットがある。	「京津冀都市圏」の発展が優先され、同じ環渤海経済圏の山東省（青島市）、遼寧省（大連市）との産業連携が進んでいない。また、発展格差が大きく、北京、天津等の都市部にリソースが集中され、それに合わせて外資に対する開放度合の観点でも、北京、天津、大連等の都市部以外には進出ハードルが高い。
【北京市】 北京市には中国企業や外国企業（日本を含む）の統括拠点が多いことから、近年増えている情報通信・ソフトウェア、化学研究・工業技術サービス、リース・ビジネスサービスについては、北京から中国全土に幅広く展開していると考えられる。	大気汚染について、北京市は改善の取組みを強化しているが、より広範囲な対策の実施が必要と言える。また、交通渋滞については深刻化している。そのため、周辺地域への産業分散を図っているが、まだ進展途中である。

メリット	留意点
【中国（天津）自由貿易試験区】 中国（天津）自由貿易試験区では、高い投資利便性、ハイエンド産業の集積、金融サービスの完備、法律環境の規範化を目指している。港や倉庫等の物流インフラが完備している。	天津市は社会保険の基数が高く、労働コストの競争力の低下を招いている。労働者の流動性が高く、定着率が低い。北京と近い観点で恵まれることもあるが、立ち位置上重複になる場合もあり、人材等が北京やその周辺地域に流出するリスクもある。
【山西省】 山西省は石炭・ボーキサイト等の資源に恵まれ、労働力や電力が安価であるため、製造業の進出にメリットがある。	山西省は山が多く、物流インフラの整備が十分に追い付いていない。
【京津冀都市圏】 京津冀都市圏（北京市、天津市、河北省等）では、北京・天津が先進製造を始めとする産業をリードし、周辺地域への経済普及効果を図っている。また、中国企業や外国（日本を含む）企業の製造業の基盤が多い。	大気汚染や交通渋滞等について、さらなる対策が必要である。また、雄安新区等のインフラ建設が進行中のため、不確定な要素が多い。

【雄安新区】

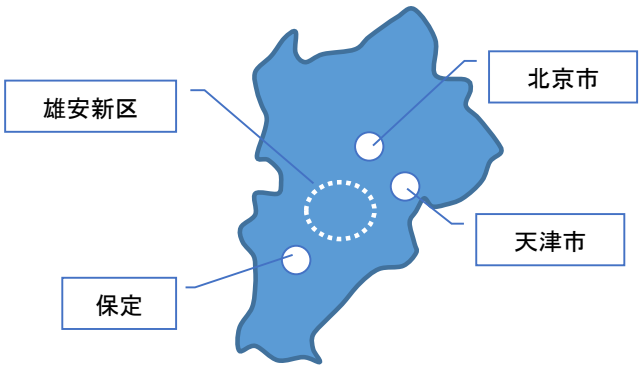
中国政府は、2017 年 4 月 1 日に、北京市、天津市に隣接する河北省に新たな特区として「雄安新区」を設立すると発表した。雄安新区は、北京と天津からそれぞれ約 100km のところに位置している。初期の開発面積は約 100km^2、将来的には東京都の広さとほぼ同じくらいの 2,000 m^2 の地域が開発される予定となっている。中国では 19 番目の国家レベルの開発新区で、習近平国家主席が指導し、鄧小平氏による 1980 年の「深圳経済特区」、江沢民氏による 1992 年の「上海浦東新区」と並ぶ国家プロジェクトとなっている。

「雄安新区」の目的は、北京・天津・河北省からなる広域経済圏の構築・発展と共に、企業や教育・医療と言った社会的サービス機能、一部行政サービス機構を北京から移転させることで北京への一極集中を緩和することにあると言われている。

2018 年 4 月に政府が発表した雄安新区の計画概要によると、人工知能（AI）を駆使した車が自動運転で走行するモデル地区とするとしている。2022 年には基礎インフラの整備を終え、2035 年に完成予定となっている。他の経済地区と差別化された、環境にも十分配慮した最先端のスマートシティの実現が期待されている。

2021 年以降、国有企業や学校、病院をはじめ、北京から雄安新区への移転が順次行っており、23 年 3 月まではすでに北京から移転した企業が 3,000 社以上となった。また、スマートシティ実現に向けてビッグデータやIoTの技術を活用し、無人タクシーや無人バス等各種の試験運営を行っている。

図表 25-3 雄安新区



(3) 進出日系企業から見た事業・生活環境やコスト

①インフラ・物流

【道路・鉄道】

北京から天津までは京津塘高速道路（1993 年開通、全長 142.69km）で約 1 時間半。京滬高速道路（北京-上海高速道路）は北京市から上海市までを結び、約 10 時間の距離である。北京や天津等の都市部では、渋滞が慢性化している。

鉄道に関しては、「京津城際鉄路」が中国初めての時速 350km で運転できる新幹線であり、30 分で北京から天津まで到着でき、各都市の地下鉄にも乗換可能である。また、「京津城際鉄路」の延長線上に上海まで行くことができ、「京広高鐵」（北京から広州まで）も同じ南北方向で河北省を横断している。東西方向の線路としては、山東省青島市から山西省太原市までつなぐ「太青高鐵」がある。その他、北京から内モンゴル経由で甘粛省蘭州市まで行ける新幹線や、内モンゴルの包頭市から海南島まで中国をほぼ横断する新幹線等がある。

【港湾】

このエリアには、秦皇島港、唐山港、天津港、黄カ港がある。天津港の貨物量は中国第 5 位であり、2022 年には年間コンテナ取扱量が 2,100 万標準コンテナを超え、近年もコンテナ取扱量が増えている。

【空港】

このエリアには、北京首都国際空港、北京大興国際空港、天津濱海国際空港、石家庄正定国際空港、唐山三女河空港、秦皇島北戴河空港、邯鄲空港、北京南苑空港がある。2019 年に新設し利用開始した北京大興国際空港は中国最大の空港であり、アジアでも最大級の空港であるが、利用率がまだ低く、北京首都国際空港の発着便の移転を進めている。空港旅客数を比較すると、北京首都国際空港の方が依然と多く、2023 年度は 8 月時点で既に 3,000 万人を超え、新型コロナウイルス前の 2019 年では年間 1 億人を超えており、アメリカのアトランタ国際空港に次いで利用者数が世界 2 位となっていた。

【電力】

山西省、内モンゴル自治区は石炭資源が豊富のため電力が安いが、内モンゴル自治区では工業等の制限が厳しく、地域によって利用できない場合がある。また、内モンゴルでは東西を分けて電力価格を決めているため進出地域に合わせて確認する必要がある。

【通信】

都市部ではインターネットが普及している。また、2022 年 4 月 19 日には中国全域の県レベル（中国語での「県級」）以上の市の都市部では 5G をカバーしている。

【不動産・物流】

北京：2023 年 Q3 時点のオフィスの平均賃料は 307 元/㎡/月。また、北京でも地域によって平均賃料の差異が大きく、一番高い「西城区」ではオフィス賃料の相場が 6.5 万元/月（約 130 万円）で東京並みの水準となっている。

天津は港や空港があり、北京との距離が近いため、従来物流のインフラが成熟しており、2022 年の倉庫平均賃金は 0.84 元/㎡・日であり、都市部での倉庫コストとしては割安になる。

②労働事情

【人材】

北京は首都であり、北京大学や清華大学等の一流学校があるため、人材確保の観点では魅力はある。「中国都市 95 後（1995 年から 1999 年生まれ）人材誘致力ランキング：2021」によると「95 後」の人材誘致ランキングでは北京が 1 位である。北京で卒業した大学生だけでなく、中国の戸籍制度の観点から子供等の次世代の教育や将来の発展のために、北京を選んでいる人材も少なくない。一方、北京以外の都市はランキング上位に入らず、特に発展が進んでいる天津に関しては、同じく発展が進んでいる長江デルタや珠江デルタ地域の各都市に遜色している現状である。また、天津市は人材の流動性が比較的高く、日系企業では人材確保に苦慮している報告もある。

【賃金】

「従業員の賃金上昇」も日系企業に対するアンケート（2021 年度海外進出日系企業実態調査中国編：2022 年 2 月日本貿易振興機構（ジェトロ））では「経営上の課題」としてあげられる。

北京市（56.0%、第 1 位）、天津市（84.6%、第 1 位）となっており、中国平均（72.4%、第 1 位）と同等に「賃金上昇」が重要な課題となっている。特に、天津市では深刻な課題となっていると言われている。天津市は他の都市と比較しても社会保険料の基数が高く、労働コストの高騰の一因にもなっている。

③生活環境

【気候】

北京市では、夏は気温 40℃を越す日もあり、冬は－10℃を下回ることもある。冬期は雨が少なく、乾燥が著しい気候である。そのため、脱水や皮膚のトラブル、上気道感染等を起こしやすく、空調・加湿器等を使用した湿度の調整が不可欠と言える。大気汚染が深刻で、特に北京では風邪を引いた後に咳・痰が治まらない、喉の痛み、目のかゆみといった症状を訴える人が増加傾向にある。また、季節によっては大量の黄砂や柳絮と呼ばれる綿毛のような樹木の種子も飛来するため、呼吸器症状やアレルギーが出やすい。天津市は、夏は 40℃以上となる時があり、逆に冬は－20℃以下となる時がある。黄砂の影響もある。

【教育】

北京市には多くの大学が集中している。北京大学、清華大学、中国人民大学等が著名である。天津にも南開大学、天津師範大学といった著名な大学がある。なお、北京と天津には日本人学校がある。

【医療】

北京の中日友好医院国際医療部や北京協和病院等では日本語での対応も可能である。天津で日本語対応可能な病院として、天津医科大学附属第一中心医院がある。

【住居】

北京市では駐在員の居住エリアとしては、CBD エリア、燕莎・麗都エリア、王府井・建国門エリア、東直門・三里屯エリアがある。中でも、燕莎・麗都エリアは日本人学校があり首都国際空港までアクセスが良いため駐在員の人気が高い。家賃の相場は、例えば、燕莎エリアの朝陽区近辺の 10 号線亮馬橋駅徒歩 7 分のマンションでは 100～120 ㎡、2 ベッドルームで月賃料 23,000 元～33,000 元（約 45.84 万円 ～65.77 万円）となっている。

【日本食】

北京市ではハイランクのホテルに限らず街中でも日本料理店がある。特に、比較的多くの日本人が居住している燕莎・麗都エリアには多い。天津市でも日本料理店は増加傾向にある。

【金融】

北京市及び天津市には、みずほ銀行、三井住友銀行、三菱 UFJ 銀行の支店がある。また、2021 年には、北京証券取引所が開設された。「全国中小企業株式譲渡システム」の一部を衣替えしたものであり、特にベンチャー企業の育成が期待されている。